

# 令和5年度 北の国・森林づくり技術交流発表会プログラム

会場：北海道大学学術交流会館（札幌市北区北8条西5丁目）

発表会の模様は、YouTubeでLIVE配信します。

令和6年2月14日(水)

YouTubeLive : <https://youtube.com/live/PdlggrjY-mg?feature=share>



◎ 受	付	9:30~
◎ 開	会 式	10:00~10:25
◎ □	頭 発 表	
	森林保全・ふれあい・地域連携部門	10:30~11:45
	森 林 技 術 部 門	11:45~12:00
◎ ポ	ス タ ー 発 表 コ ア タ イ ム	
	一 般 部 門	13:00~14:00
◎ □	頭 発 表	
	森 林 技 術 部 門	14:00~16:00

令和6年2月15日(木)

YouTubeLive : <https://youtube.com/live/lGyWq0AwtVk?feature=share>



◎ 受	付	9:30~
◎ □	頭 発 表	
	森林保全・ふれあい・地域連携部門	10:00~10:30
	高 等 学 校 部 門	10:30~11:15
◎ ポ	ス タ ー 発 表 コ ア タ イ ム	
	高 等 学 校 部 門	11:30~12:00
◎ 特	別 発 表	13:00~14:15
◎ 特	別 講 演	14:30~15:30
◎ 講	評 ・ 表 彰 式	15:35~16:00
◎ 閉	会 式	16:00~16:05

※ 北海道森林管理局が発表会で撮影する発表者や来場者等の写真等の映像は、YouTubeで配信され、北海道森林管理局ホームページや技術交流発表集に使用致しますので、予めご承知おきください。

令和5年度 北の国・森林づくり技術交流発表会(1日目)

令和6年2月14日(水)  
場所:講堂(2階)

森林保全・ふれあい・地域連携部門 4課題 10:30~11:45  
森林技術部門 8課題 11:45~16:00

【森林保全・ふれあい・地域連携部門】

10:30~ ① 民国共用のストックヤード設置による民有林整備の推進支援について

赤井川村 須藤 雅俊

石狩森林管理署 村瀬 寿安、菅原 宏幸

〔 森林整備協定の下、トレーラー乗り入れ可能な民国共用のストックヤードを設置し販路を拡大している。新たに赤井川村内の国有林にもストックヤードを設置し、販路拡大を通じ民有林整備の推進に資することを報告する。 〕

10:45~ ② 民有林に向けた林業技術の普及について

留萌北部森林管理署 小澤 光、野崎 潤也

〔 国有林が行っている林業技術の共有・普及することを目的として、昨年度より管内自治体、森林室を参集し、勉強会を実施しました。今年度においても開催したので、その成果と今後の展望等について発表します。 〕

休憩 11:00~11:15

11:15~ ③ 見て、体験して、学ぶ。空知署の森林環境教育  
~人材育成を交えて~

空知森林管理署 山下 勇気、土屋 美月、木村 雅代

〔 空知署は11市町を管轄しており、森林環境教育の要望も教育機関に留まらず就労継続支援施設など年齢・目的が多様多様となっている。今回は地域特性を生かしながら職員の視点も交えて工夫した活動について報告する。 〕

11:30~ ④ 多様な森づくりを通じた生物多様性保全への取組  
~保残木は大国産材時代の救世主となりうるか~

空知森林管理署北空知支署 外山 祐紀、田口 祐輝

〔 多様な森づくりを通じた生物多様性保全の実現に向け、広葉樹の単木保残処理を行った誘導伐跡地において鳥類とオサムシ科甲虫類のモニタリング調査を実施し、保残木の有する生物多様性保全機能について検証した。 〕

【森林技術部門】

11:45~ ① 治山担当の目線で考えるGISの活用について

胆振東部森林管理署 浅野 誠一郎、廣瀬 由羽

〔 治山業務においてQGISを活用し、保安林協議事務と治山工事台帳閲覧の効率化と共有について、署内全職員を対象に取り組んだ内容について報告します。 〕

昼食休憩 12:00~13:00

ポスター発表(一般部門)コアタイム 13:00~14:00

14:00~ ② えりも岬緑化事業70年にわたる施業沿革と今後の森林づくり

日高南部森林管理署 宮崎 亙、長田 勇樹

〔 令和5年で開始から70年を迎えた「えりも岬緑化事業」について、これまでに実施した事業をふりかえり、現在の取組状況と今後の方向性などについて報告する。 〕

14:15~ ③ 着実な造林へ向けたコンテナ苗活用への取組

北海道空知総合振興局森林室普及課 池内 るりこ

〔 コンテナ苗を活用した労務の分散による着実な再造林を図るため、R2年度にコンテナ苗利用の有効性を検証する実証林を由仁町に設置した。R5年度に深川市で設置した実証林も含め、今後の展望や活用方法等を報告する。 〕

14:30~ ④ コンテナ苗を植えて下刈り省略・回数削減

北海道山林種苗協同組合紋別地区種苗協議会 遠藤 貞

〔 造林事業の増加、造林従事者の高齢化や減少など問題に、各種作業の機械化で対応を進めています。コンテナ苗植栽種での可能性を考えました。①用途に応じたコンテナ苗の育成②コンテナ苗の生産拡大③下刈り期間短縮・省略 〕

14:45~ ⑤ 造林作業の省力化・低コスト化実証事業の見える化の一考察

十勝西部森林管理署 阿部 義則

〔 造林作業の省力化・低コスト化に関する実証地が植栽後5年を経過、下刈りの省力化に向けた地拵及び植栽方法について報告する。 〕

休憩 15:00~15:15

15:15~ ⑥ よく見たら似ているよ、林分のドット模様を使って林相を判別しよう

上川南部森林管理署 岡田 直人、田辺 結葉

〔 林齢、林相等が類似した同一樹種の林分は、1箇所の調査数値を類似した林分へ適用できることとされているが、衛星写真等の身近にあるツールを活用し得られたデータにより、類似林分として適用できるか検証した。 〕

15:30~ ⑦ 低軌道衛星通信の検証と利用可能性について

NTTアドバンステクノロジー(株) 箸尾 圭相

渡島森林管理署 窪田 泰尚、瀬尾 隆治

〔 林業においてもICT技術の活用を目指しているところですが、今回は治山工事現場で試験的に低軌道衛星を使って山間奥地で通信環境を確保し、導入コスト・通信品質等の検証を行い、有効性と可能性を考察した。 〕

15:45~ ⑧ 木材の大量輸送に対応できる丈夫な林道を目指して

根釧西部森林管理署 清水川 一儀、見付 亜那

〔 木材の大量輸送に対応した林道が求められていることから、セミトレーラー規格で施工した改良工事を例に壊れにくい林道を目指した工種や効果について紹介します。 〕

令和5年度 北の国・森林づくり技術交流発表会(2日目)

令和6年2月15日(木)  
場所:講堂(2階)

森林保全・ふれあい・地域連携部門	2課題	10:00~10:30
高等学校部門	3課題	10:30~11:15
特別発表	4課題	13:00~14:15
特別講演		14:30~15:30

【森林保全・ふれあい・地域連携部門】

10:00~ ⑤ 図工の時間から広げる森林・林業への関心  
～地域材を活用した小4図工木工キットの製作と展開～

札幌市みどりの管理課 上田 剛、木村 綾乃

〔小学4年生の図工の時間に木材を用いて造形を行う機会があることに着目し、使用する木材に地域材を用いるとともに、授業後の森林・林業の普及につなげる資料の作成などに北海道森林管理局と協力して取り組んだ。〕

10:15~ ⑥ 森林資源の魅力を都会で発信した取組事例  
- 木炭づくり体験を通じて -

明治大学商学部 水野勝之ゼミナール 吉田 凜子、宇留間 滉太、原田 祐里

〔浦幌町の炭焼き工房と連携し、大学生が木炭を生産し、千葉県浦安市にて、それらを使用した焼き串を販売し、さらに木育教室を開催した。これら取組みにより、森林の魅力を都会へ発信できたと考えている。〕

【高等学校部門】

10:30~ ① 北海道岩見沢農業高等学校における木育の取組について

北海道岩見沢農業高等学校 斉藤 光希、長谷川 斗真

〔本校・森林科学科では、木育班を組織し岩見沢市内の保育園と連携した体系的な木育の展開や、多くの方々との交流ツールとして木育を活用しているため、これら実践事例について発表します。〕

10:45~ ② 上川アップテート・プロジェクト  
～上川町の森と人をつなぐオリジナル酒柶の制作2023～

北海道旭川農業高等学校 佐々木 宥紀、鎌田 倖大、稲村 琉斗

〔昨年度よりスタートしたプロジェクトであり、上川町産材のシラカンバを使用したオリジナル酒柶を制作しました。上川町での報告会等を通して改良を重ねた結果、多くの方々の支えもあり遂に完成することができました。〕

11:00~ ③ ミズナラ人工林の育て方を考える

北海道帯広農業高等学校 中川 里桜、堀 絢乃、皆川 弥希  
村田 由絃、村山 奨、山口 美典

〔本校の学校林にはカラマツ人工林からシイタケ原木採取を目的とした広葉樹人工林への転換を進めている区画があります。実習で必要な原木を生産するのに必要な面積を求め、現在ある広葉樹人工林の育て方を考えます。〕

休憩 11:15~11:30

ポスター発表（高等学校部門）コアタイム 11:30～12:00

昼食休憩 12:00～13:00

13:00～ ① トドマツ人工林における低密度管理の検証

北海道森林管理局森林技術・支援センター 谷村 亮

〔 当センターでは、若齢トドマツ人工林を疑似的に低密度に仕立て、本数密度の違いによる植栽木の成長状況の検証から、適正な密度管理について検討することとしており、本発表ではこれまでの調査結果について報告する。 〕

13:15～ ② 道産トドマツの建築材供給拡大に向けた取り組み

北海道立総合研究機構 森林研究本部 林産試験場 松本 和茂

〔 ウッドショックの際に価格が高騰した輸入材の代替として、道産トドマツによる建築材供給への期待が高まった。人工乾燥材の供給力などの課題を踏まえて、トドマツ建築材の供給拡大に向けた取り組みを紹介する。 〕

13:35～ ③ シラカンバ天然更新を目指した複数の地表処理法の試み

国立研究開発法人森林研究・整備機構

森林総合研究所北海道支所 橋本 徹

〔 低コスト天然更新技術としての地掻きはササ根を除去する際に表土も除去してしまう。そこで、表土を保持できる地表処理法として盛り土と天地返しを試みたが、地掻きより優れた点は見いだせなかった。 〕

13:55～ ④ 北海道のミズナラの地理的変異を明らかにする

国立研究開発法人森林研究・整備機構

森林総合研究所林木育種センター北海道育種場 生方 正俊

〔 北海道を代表する広葉樹であるミズナラについて、葉や堅果の形態、開葉時期など様々な形質の地理的変異や環境要因との関連性について北海道育種場が30年以上にわたって行ってきた研究を紹介します。 〕

休憩 14:15～14:30

特別講演 14:30～15:30

特別講演

令和6年2月15日(木)14:30~

# 環境教育としての自然体験

国立大学法人 北海道教育大学岩見沢校

環境教育学研究室 教授 能條 歩

## 【略歴略歴・主な研究テーマ】

国立大学法人 北海道教育大学教育学部岩見沢校 アウトドア・ライフコース 教授

博士(地球環境科学)、NPO法人北海道自然体験活動サポートセンター 理事長

1963年、北海道札幌市生まれ。1986年北海道教育大学岩見沢分校卒業。北海道立高等学校教員・今金町教育委員会学芸員兼社会教育係を経て現職。

専門は、自然体験教育学・環境教育学・災害教育・地球環境変遷学。日本環境教育学会北海道支部長、日本シエアリングネイチャー協会指導者養成委員長、北海道環境教育等推進協議会副委員長を務めるほか、小・中学校理科の教科書編集にも携わりながら、「自然と人をつなぐ教育活動」をテーマに活動中。



## 【講演概要】

近年では、「森のようちえん」や「自然体験活動」などの自然を活用した教育活動やレジャーが盛んになり、北海道ではアドベンチャーツアーツーリズムなどの自然体験をウリにした重視した産業にも大きな期待が寄せられるようになってきています。自然の中に人々が出向く場が増えることは環境教育的な要素を盛り込むチャンスですので、せつかくの自然体験ですから、単に自然とふれあう時間を増やすことだけに終わらせるのではなく、自然界におけるつながり(循環)や多様性を意識して、持続可能な未来づくりの担い手の育成につながる活動にしたいものです。そのために、自然体験ならではの「自然との距離を縮める」「多様性や変化を実感できる」「感性をとぎすませる」「言語の獲得につながる」「つながりを実感する」「心身の機能の発達を促す」などの特性を活かし、「自然への親和的態度」や「一体感」「畏敬の念」などが得られるような体験とする活動について考えてみましょう。

## 【著書関係】

「post-SDGs時代の環境教育学～自然体験教育学の視程～」、「自然保育と環境教育・ESD」、「人と自然とつなぐ教育～自然体験教育学入門～」、「人と自然をつなぐ教育II～自然体験教育学の実践～」、「人と自然をつなぐ教育III～こどものキャンプと登山～」、「自然体験教育ブックレット1 学校教育を活かす自然体験教育」、「自然体験教育ブックレット2 あなたにもできる! 環境教育・ESD」、「自然体験教育ブックレット3 とぎすまそう! 安全への感覚～里山活動でのリスク管理～」、「自然体験教育ブックレット4 はぐくもう! 自立型災害ボランティアマインド～自然災害と被災地支援～」、「自然災害ボランティアハンドブック」(以上、北海道自然体験活動サポートセンター)、「自然災害ボランティアABC」(日本ネイチャーゲーム協会)、「北海道地方-日本地方地質誌1-」(朝倉書店)、「環境教育辞典」(教育出版)、「地質案内 道南の自然を歩く」(北海道大学図書刊行会)など多数

令和5年度 北の国・森林づくり技術交流発表会（ポスター発表）

場所：ロビー（1階）

コアタイム

一般部門（P01～18）：令和6年2月14日（水）13:00～14:00

高等学校部門（P19～26）：令和6年2月15日（木）11:30～12:00

P01 石狩地域森林ふれあい推進センターの森林再生・森林づくり、森林環境教育等の取り組みについて

石狩地域森林ふれあい推進センター 中澤 真一郎、高尾 聡、温井 和樹、坂田 康治

〔石狩地域森林ふれあいセンターでは、風倒被害地（野幌）の森林再生・地域のもりから学ぶ森林づくり・札幌の水源地の森づくりをNPO法人や市民等と取り組んでおり、その活動紹介と課題について考察を行っています。〕

P02 生徒の思い・描いた森  
定山溪中学校の「ゆめの森」での活動

石狩地域森林ふれあい推進センター 中澤 真一郎、高尾 聡、温井 和樹、坂田 康治

〔札幌市の水源地である定山溪の森林で、生徒・児童が森林環境教育の中で行っている取り組みを通じ森林の大切さを学び、自分たちが描いた「ゆめの森」の実現に向けて行っている活動の報告。〕

P03 知床半島における哺乳類等のモニタリングについて

知床森林生態系保全センター 清水 晴彦、北原 廉也

〔知床森林生態系保全センターでは、知床世界自然遺産の価値を保全する取り組みの一環として、長期にわたり外来種を含む哺乳類等の生息状況をモニタリングしている。今回は、その結果について報告する。〕

P04 コンパクトトラックローダを活用した機械下刈への取組について

石狩森林管理署 野々村 真和

株式会社小玉 白田 利彦

〔当署の請負事業体で、コンパクトトラックローダを導入して各種検討を実施したことから、当該機種を用いた地拵工程や下刈の植栽仕様における考察、今後の機械下刈普及に向けての取組方針について報告します。〕

P05 アイヌ文化で資源利用する草本植物の再生状況等について

株式会社 平取町アイヌ文化振興公社 鹿戸 幸助

日高北部森林管理署 田口 和香菜、武田 恵

〔地域との協働で設置している北海道古来の森の再生試験地において、アイヌ文化で資源利用する草本植物の再生状況と対照区を比較することにより、シカの食害影響と今後の対策を考察します。〕

P06 苗木規格差に着目した生長量比較試験について その2

留萌南部森林管理署 佐々木 颯、堂坂 文彦

〔昨年度ポスター発表した「苗木の規格差による『生長量』『活着率』等の違い」について、今年度も引き続き試験地調査した結果について、現時点での状況及び成果を報告する。〕

P07 天塩川流域における魚類等の移動の連続性確保に向けた取り組みについて

上川北部森林管理署 伊藤 大悟、櫻庭 佳男、馬場 崇

〔天塩川水系河川整備計画に参画し、計画の1つである、魚類の移動連続性確保及び生息環境の保全に向けた治山事業の取り組みを紹介する。〕

P08 礼文島における森林・林業の啓発活動について  
～「礼文の森から」発刊25周年の歩み～

宗谷森林管理署 佐々木 健司

〔離島である礼文島では、森林環境保全のため地元住民の理解・協力が不可欠であり、代々の森林官が、コミュニティー広報「礼文の森から」を作成し啓発活動を行っている。発刊25周年に当たりその取組みを紹介する。〕

P09 「新しい林業」の展開に向けた機械下刈の取組  
～リモコン式草刈機「RJ703神刈」・油圧ショベル用マルチャーの場合～

上川中部森林管理署 谷本 直緒子

「新しい林業」の展開に向けて作業の省力化・軽労化が進められている。当署では下刈作業の機械化に向けてリモコン式草刈機・油圧ショベル用マルチャーにより今年度約15haの機械下刈を実施したので報告する。

P10 トマト育苗期間短縮苗木の生長状況について

網走西部森林管理署 松崎 陽平

トマトの育苗期間は裸苗で5年、コンテナ苗で4年の期間を要するため、植付面積の変化により苗木の供給過多等が発生している。そこで、緩効性肥料を用いた育苗期間を2年に短縮したコンテナ苗の成長状況を調査した。

P11 造林作業の省力化への取組

網走西部森林管理署西紋別支署 瀧口 聡、杉本 明優

令和4年度にコンテナ苗と裸苗、本数密度の異なる複数のプロットを設定し、生長量や下刈コストの比較等を実施しており、今年度の調査結果までを元に各プロットとの比較を行った。

P12 忌避剤散布によるエゾシカ被害対策の効果検証

根釧東部森林管理署 小川 佳織、後藤 正等、三尋木 祐太

エゾシカ生息頭数は近年高水準で増加傾向にあり、エゾシカによる造林地植栽木の被害等の被害が拡大し、再造林経費の増大が懸念されることから、忌避剤散布による効果的な方法等について検証を行った。

P13 造林作業の「効率化・低コスト・軽労化」の取組 — 令和5年度の取組 —

十勝東部森林管理署 中野 夏未、神田 健冴、蔵野 亜紀子

これまで造林作業の「高効率・低コスト・軽労化」の取組みを行ってきており、令和5年度に実施したリモコン草刈機による下刈及びクラッシャーによる地拵の取組内容等と今後の課題について考察する。

P14 盛土地拵活用による下刈作業省力化へ向けて

十勝西部森林管理署東大雪支署 相津 弘憲、西口 豊樹

「造林作業の担い手不足」については深刻な状況であり早急な対策が必要となっています。造林作業の簡素化、特に人力作業が主体で軽労化が課題となっている「下刈作業」に焦点を当て省力化に向けて取組を行いました。

P15 高足刈りによるエゾシカ被害緩和の検証

後志森林管理署 中澤 慧人、嶋貫 新二

エゾシカによるカラマツ苗の被害被害が多発しており、その対策として特段の準備が不要な対策はないかと考え、下刈を地際より約50cmの高さで行う「高足刈り」を採用し、エゾシカ被害緩和の検証を行いました。

P16 造林事業実行地におけるクロルリハムシ(北海道レッドリスト準絶滅危惧種)の確認報告

檜山森林管理署 佐藤 諒一

檜山森林管理署管内の国有林において、北海道レッドリスト準絶滅危惧種であるクロルリハムシを確認しました。確認箇所は造林事業地が多く、造林事業により本種が好む林縁環境が増加したためと示唆されました。

P17 北海道初上陸！セーザイゲームの開催報告

檜山森林管理署 長岡 愛加、更谷 侑亮

製材所の仕事を疑似体験できる「セーザイゲーム」を開催し、職員のスキルアップや国有林PRを図った。この取組みを報告し、川中の製材業に焦点をあてたゲームの内容や参加者の感想、今後の展望について発表する。

P18 コンテナ苗を植えて下刈り省略・回数削減

北海道山林種苗協同組合紋別地区種苗協議会 遠藤 貞

造林事業の増加、造林従事者の高齢化や減少など問題に、各種作業の機械化で対応を進めています。コンテナ苗植栽での可能性を考えました。①用途に応じたコンテナ苗の育成②コンテナ苗の生産拡大③下刈期間短縮・省略

P19 私たちが考える月形演習林の未来像2023

北海道岩見沢農業高等学校 鎌田 佳貴、岩井 慎侑、小池 玲輝、小平 唯吹、瀬尾 春花  
西川 蒔路、遠山 優弥、水戸 孝高、森下 温大、三澤 光

〔月形町に位置する本校演習林の人工林の大半が11齢級以上のトドマツ林であることから、今後の更新のあり方について、林床の稚樹調査や山取トドマツ苗の生育調査などを元に検討した。〕

P20 月形演習林と見本林を豊かに身近に  
～ 利用しやすい月形演習林、校内見本林を目指して 2023 ～

北海道岩見沢農業高等学校 大森 煌貴、北田 星楠、田村 秋菜、西原 佑岳、細谷 瑠希乃  
本荘 杜虎、宮城 輝拓、棟方 煌貴、村上 陽大、山下 優弥

〔本校の見本林は、利用したいと思える環境になっていません。多くの人に利用してもらうための歩道整備と、わかりにくい演習林の林道をわかりやすくしたいと考え、看板の設置方法を工夫しました。〕

P21 木材の有効活用

北海道岩見沢農業高等学校 米内 裕太、太田口 尊和、清水 智矢、菅井 颯太  
高倉 宙汰、夏川 由恭、橋本 海斗、南原 俊乃介

〔本校演習林では、毎年、倒木や間伐・チェーンソー実習で毎年多くの丸太が排出されます。その丸太の有効利用をテーマとして活動しています。〕

P22 上川アップテート・プロジェクト ～ 上川町の森と人をつなぐオリジナル酒杓の制作2023 ～

北海道旭川農業高等学校 佐々木 宥紀、鎌田 倅大、稲村 琉斗

〔昨年度よりスタートしたプロジェクトであり、上川町産材のシラカンパを使用したオリジナル酒杓を制作しました。上川町での報告会等を通して改良を重ねた結果、多くの方々の支えもあり遂に完成することができました。〕

P23 知育玩具スロープトイ ～世界に一つのこっぱっぱスロープトイを作ってみよう～

北海道旭川農業高等学校 谷 晴登、餌取 梅、城間 得幸

〔家具製造時に出る木っ端(こっぱ)を活用した知育玩具を開発し、子ども達に森林の持続性やゼロカーボンについて知ってもらう手段とする。また試行錯誤をしながら遊んでもらうことで、思考力を養うことも目的とする。〕

P24 旭農版コンテナ苗の生産 ～コンテナ苗培地の違いによる比較実験～

北海道旭川農業高等学校 稲村 琉斗、工藤 開、人見 健太、角張 心音

〔コンテナ苗の培地にココナツハスク主体とビートモス主体の培地を使用して、成長を比較実験しました。今回は、苗高はココナツハスク培地が、根本径はビートモス培地の成長が良いという結果になりました。〕

P25 『木づかい』を広げよう！ ～作って広める木の魅力発信プロジェクト～

北海道旭川農業高等学校 小野 晶登、奥州 優介、木下 晴稀  
藤原 優真、堀井 歩夢、山根 完太

〔日本の森林の多くは伐期を迎えているが、国産木材の利用率は大幅な改善には至っていない。そこで、地元産木材を中心に、身近に利用できる木工製品を制作し、販売や木育体験を通じて『木づかい』の普及に取り組んだ。〕

P26 ミズナラ人工林の育て方を考える

北海道帯広農業高等学校 中川 里桜、堀 絢乃、皆川 弥希  
村田 由紘、村山 奨、山口 美典

〔本校の学校林にはカラマツ人工林からシイタケ原木採取を目的とした広葉樹人工林への転換を進めている区画があります。実習で必要な原木を生産するのに必要な面積を求め、現在ある広葉樹人工林の育て方を考えます。〕

## 注 意 事 項

- ① 体調のすぐれない方はご入場をお控えください。
- ② 携帯電話等は、電源を切るかマナーモードに設定してください。
- ③ 大学敷地内は禁煙のため喫煙はご遠慮ください。  
なお、施設には喫煙室はありません。
- ④ 施設運営において施設内での飲食については、飲み物は可能ですが、食事はできません。
- ⑤ ゴミは各自で持ち帰ってください。

## 注 意 事 項

- ・ 記入したアンケートは忘れずにアンケート回収箱へ投函ください。
- ・ Webアンケートについては、下記の北海道森林管理局ホームページをご覧ください。  
URL : <https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>
- ・ なお、メールにてアンケート提出については、下記のメールアドレスまで送付ください。  
[h\\_r5\\_happyo@maff.go.jp](mailto:h_r5_happyo@maff.go.jp) (●を@に置き換えてください)



[北の国・森林づくり技術交流発表会運営事務局]  
北海道森林管理局 森林整備部 技術普及課  
北海道札幌市中央区宮の森3条7丁目70番  
011-622-5245

